

# 継続的、段階的に行う話すこと 「やり取り」の指導



駒澤 正人  
(千代田区立麹町中学校)

内容解説資料は  
こちらから  
ご覧いただけます



## 話すこと「やり取り」の指導で目指す生徒の姿

「やり取り」はさまざまな目的や場面、状況で行われる。日常で行われるたわいのない会話、カフェなどの店で必要な情報を伝え合うために行われる会話、集団で日常的・社会的課題を解決するために行われる話し合いやディベートなど、その場面は多岐にわたる。学習指導要領においても以下のように大きく3つの主な話題が示されている。

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。
  - イ 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。
  - ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。
- (学習指導要領 外国語 第2節 1目標 (3) 話すこと【やり取り】)

目標となる場面、話題は異なるものの、「やり取り」で身につけるべき力は一貫しており、「事実や相互の考え、思い」を「即興で伝え合う／述べ合う」力であり、この力の育成を指導の軸として常に意識し、3年間の指導を通して、継続的、段階的に行うことが「やり取り」の指導を行う上で重要であると考えている。

07NCでは、継続的、段階的な「やり取り」の指導を各学年で適宜指導できるようSmall Talk Plusというパートを設定し、自然なやり取りを達成するために必要なスキル、要素（以下ターゲットスキル）が指導できるよう工夫されている。各学年で設定されている主な指導項目を整理すると以下ようになる。

- 1年
  - ・相手の発言を受けて、リアクションしたり、さらに詳しい内容を質問したりする。
  - ・相手の発言を受けて、リアクションしたり、感想を伝えたりする。
- 2年
  - ・話された内容に関連した質問をする。
  - ・伝える順を意識しながら複数の文で伝える。
  - ・自分の考えとその理由や根拠を伝える。
- 3年
  - ・確認したり聞き返したりして、会話を深める。
  - ・相手の意見を受け止めてから自分の意見を伝える。
  - ・発言の意図を確認し、スムーズにやり取りを進める。

段階的に設定されたSmall Talk Plusを、年間を通した指導の中で計画的に扱い、それらの要素を継続して活用させることで、円滑に「やり取り」の力を育成することができる構成となっている。

これらの系統立てられたスキルの習得に加え、指導の際に留意すべき事項として、以下の3点を心がけたい。

- ① 会話の継続性を高めるために、自然な会話（普段生徒たちが日本語で行う会話、討議など）をイメージさせ、会話を分析させる。
- ② 思考力、判断力、表現力を伸ばすために、モデルスキットに倣うような活動ではなく、自分で創作する活動を基本とする。
- ③ 間違えることを恐れず、(単語の羅列でもよいので) 伝えようとする態度を大切にする。

※特に②は、即興のやり取りの活動を行った時に生徒がよく口にする「次に何を言えばいいのかわからない」という課題を解決するために重要である。

## 実際の指導例

2年Lesson 5のSmall Talk Plusは、2学期に実施されることが想定され、年間の学習過程の中間地点にあたる。この時期までの指導により、生徒は質問、回答、反応などのリアクションをくり返し、会話を継続して行うことが期待される。

Small Talk Plusの構成は、次の通りである。

### 1 導入となるペアトーク

### 2 ターゲットスキルのインプット

### 3 ターゲットスキルのインテイク（習熟活動）

### 4 ターゲットスキルを駆使したアウトプット活動

これを基本として、生徒の実態に応じて授業をデザインする。

トークテーマである“Where is a good place to visit in our town?”を実際のクラスで尋ねた時、生徒はどのような回答をするかを検討す

るとよいだろう。その様子から必要な補助活動が何かを考え、構成を整えることで、生徒の実態に応じた授業を展開することができる。

例えば、普段の授業で会話があまり続かない傾向にあるクラスでは、やり取りの継続性を高めるために、「次に何を言うべきかを考えさせる」活動を補う必要がある。また、質問に応えようとする姿勢が十分に身につけていない雰囲気のクラスなら、普段の授業で形式張らない英語によるやり取りを行い、英語でのコミュニケーションに慣れさせる必要があるかもしれない。Small Talk Plusの導入の段階においても、既習スキルを活用しながらやり取りを多く行い、会話をしようとする雰囲気を作り出していく。このような補助活動を取り入れて、活動をデザインすると次のようになる。

### 《Round 1》導入

#### (1) Teacher Talkによる導入

クラス全体でやり取りをしながら、会話しようとする雰囲気を作ったり、トークテーマの理解を図ったりする。

#### (2) 生徒同士のペアトーク

パソコンやタブレットPCの録画、録音、ディクテーション機能などを用いて記録する。会話を継続しようとする力を育てるために、会話のポイントなどは示さず、会話のキャッチボールを止めないことだけに留意させたい。

### 《Round 1 / TIME OUT》インプット

#### (1) 分析による課題把握

1年次より学習してきたやり取りの評価基準をまとめたものを参考に、「導入(2)」で記録した会話を分析し、より自然な会話にするための課題を考え、ワークシート等に記入し、クラス全体で共有する。ちなみに、ここで扱うワークシートは年間を通じて記入できるものが望ましく、生徒が自分のやり取りを振り返るためだけでなく、過去の取り組みを生かすために活用できるようにすることで、さらに学習効果が期待できると考える。

#### (2) ターゲットスキルの提示

本時のねらいとなるターゲットスキルを提示し、その意味や機能を説明する。生徒は(1)で分析した会話を元に、会話のどこで、どのようにそのスキルを使うことができるかを考え、会話の質と量の

向上を図る。



2年Lesson 5  
Small Talk Plus

### (3) 生徒同士のペアトーク(再)

改善したい点に注意しながら、同じペアで再び会話をする。

### 《Round 2》インテイク

同じトークテーマであっても、ペアを変えて会話することで細かな部分が異なり、会話の向かう方向が大きく変わる。会話の度に、評価基準に照らし合わせ、十分にやり取りできたかを分析させることで、思考力、判断力、表現力の育成につなげることができる。

### 《Round 3》アウトプット

ターゲットスキルを中心に、「インプット(1)」で示したやり取りの評価基準を再度確認させたあと、Round 3のトークテーマを用いて会話に取り組ませ、ターゲットスキルの理解を確かめる。

### まとめ

本時でのやり取りについて振り返りを行い、学習成果と今後の課題をまとめさせることで、今後の学習につなげていく。

生徒のやり取りする力は日々の授業で少しずつ伸びていく。そのため、Small Talk Plusを指導するときに完結させ、結果を見ようとするのではなく、次のSmall Talk Plusに向けてさまざまな場面で継続して指導を行うことが重要である。その後も3年の指導が終わるまで適宜振り返りながら、長いスパンで習熟できるように指導していくことが必要となる。また、表現の正確性の育成についても注意を向けながら、即興性のある英語の表現活動に取り組むことで「事実や相互の考え、思い」を「即興で伝え合う/述べ合う」力を育成していきたい。

## NEW CROWNの教材が持つ力 — I Have a Dreamをめぐる

音読テストでは、一週間前に実施日と範囲を生徒に連絡し、教科書準拠のCDと同じように本文を読むように何度も練習しておくことを指示します。教師は、学習した範囲のレッスン名とページをカードの下に記入し封筒に入れ、生徒は引いたカードの教科書のページを開き、教師の前で音読します。中学3年生の音読テストで、ある生徒が「I have a dream ...」のカードを引いた時のことです。生徒が「先生、スピーチをしてもいいですか?」と尋ねたのです。音読テストでしたが、私は「どうぞ」と言ってしまいました。生徒は「私、この箇所をやってみたかったんです。」と言って教科書を閉じ、私の目の前でキング牧師のスピーチをしました。私は思わず拍手をしました。教材に力があると生徒の心に響き、教師の予想を超えるプレゼンテーションをするのだと思いました。「題材のNEW CROWN」のなす業でした。



日基 滋之  
(拓殖大学)